

2015年11月15日(日) / 山梨県甲府市 / かいてらす(山梨県地場産業センター)

## 山梨の“自然・まち・富士山”

～ももって、いかして、トゥギャザーしよう!～

平成27年度の社会貢献フォーラムは、山梨県甲府市で開催された。第一部には、タレントや俳優として活躍するかたわら、富士山や地域の清掃などのボランティア活動に取り組むルー大柴さんが登場。独特のポキャブラリーを駆使した軽快なトークに会場は笑いに包まれた。第二部のフォーラムでは、県内で行われている社会貢献活動の事例紹介を皮切りに、パネリストが地域の財産を守るために社会貢献活動が果たす役割について意見を述べ合った。

**主催:**  
全日本社会貢献団体機構 / 山梨日日新聞社 / 山梨放送 / 全国地方新聞社連合会

**後援:**  
山梨県 / 山梨県教育委員会 / 甲府市 / 甲府市教育委員会 / 都留文科大学 / NHK 甲府放送局 / 日本ネットワークサービス / 共同通信社 / 全日本遊技事業協同組合連合会 / 山梨県遊技業協同組合 / 富士山をきれいにする会

### 第一部 トーク

#### エンジョイしながら自分磨き!ルー大柴さんの社会貢献

私は2007年4月からNHKの「みんなのうた」で放送された『MOTTAINAI～もったいない～』を歌ったことをきっかけに、マイ箸、マイバッグを持ったり、電気のスイッチを小まめに切ったりするようになり、それがいろいろな活動につながりました。

そのひとつが、富士山の清掃活動です。これはNPO法人の「富士山クラブ」が主催する清掃活動に参加して、富士山周辺の道路や森でゴミを拾うというものです。行くとなんかいろいろなものが捨てられている。自転車、レコー

ド、缶詰、ベビーカー、トタン、はたまた注射針、散弾銃の葉きょうまで、ちょっと掘ると、出てくる、出てくる。2時間ほどの清掃で、2トントラック2台分くらいのゴミが集まります。また、静岡県の田子の浦で行われる企業対抗ゴミ拾い大会に、審査員として参加したこともあります。ペットボトルのようなものはもちろん、タイヤや電子レンジまで漂着してくる。家族連れで参加する人も多く、子どもにとってもいい思い出になると思います。

私は2ヵ月に一回、自宅からひと駅先の駅まで往復で、路上のゴミ拾いをしています。また、近所の公園で朝6時半くらいにやっている太極拳に参加していますが、同じ参加者のおじさんが、月一回、公園のトイレを掃除しているのを見て、私もやらせてくださいと始めてみました。もう3年くらいになります。便器の清掃のほか、排水溝の落ち葉なども取って水回りをよくする。タクシーの運転手や工事現場に向かう人が利用しに来て、「もしかしたらルーさんじゃない?何をしているんですか?」と聞くから、「掃除をしているだけ」と答えたら、「ご苦労様です」と声をかけられました。



出席者プロフィール



ルー大柴さん  
俳優・タレント

1954年新宿生まれ。英語と日本語を混ぜたルー語を使った独自のキャラクターで活躍。2007年にNHKの「みんなのうた」で歌った『MOTTAINAI』をきっかけに、富士山の樹海清掃や地域のゴミ拾いなど環境活動にも積極的に取り組む。



渡辺豊博さん  
都留文科大学  
社会学科 教授

1950年生まれ。東京農工大学農学部卒業後、静岡県庁に入庁。2008年より都留文科大学社会学科教授を務め、地域環境計画や「富士山学」などを開講。1992年にNPO法人グラウンドワーク三島を設立し、源兵衛川の水辺再生に取り組む。



小宮山良一さん  
山梨日日新聞社 / 山梨放送富士吉田総支社長

1963年北杜市生まれ。早稲田大学教育学部卒業。86年山梨日日新聞社入社。運動部、社会部、通信部などを経て、2005年スポーツ報道部長など歴任し、15年6月から現職。



自宅のマンションのベランダには夏場、グリーンカーテンとしてゴーヤを植えているし、部屋ではなるべく扇風機で涼をとる。ちょっとした文章を書くときなど、私は鉛筆を使っていますが、それが短くなったらホルダーに入れて最後まで使い切るようにしています。

フードバンクに取り組んでいる「セカンドハーベストジャパン」という団体の活動も、お手伝いしています。いま、日本では、賞味期限切れが近いとか、容器がつぶれているとか、野菜の形が悪いなどの理由で、食べられるのに捨てられている食べものが年間600万トンもある。それを集めて、食べものに困っている施設や人に届ける活動がフードバンク。



企業や一般の方々から送られてきたものの賞味期限を確認し、仕分けして、箱に詰める作業のお手伝いに行きました。

こうした活動をみんなとエンジョイしながらトゥギャザーで行うことで、なんだか心が非常にイノセントな気分になる。それが、とってもすてきなことだと思う。では最後に、私が『MOTTAINAI～もったいない～』を歌いますから、みなさんはサビのところと一緒にフリをつけて歌いましょう。行きますよ～!

ルー大柴さんとフォーラム聴講者が一緒に歌い第一部が締めくくられた。

[聞き手: 古屋和雄さん]

### 第二部 フォーラム

#### 山梨県内で行われている社会貢献活動の事例

**古屋さん** これから山梨県内で行われている社会貢献活動の具体的な事例を見ながら、パネリストの方々にご意見をうかがうとともに、社会貢献活動の持つ力や可能性について一緒に考えていきたいと思います。最初に都留文科大学の学生である太田裕也さんと石岡真由美さん、そして山梨県遊技業協同組合の西村成龍理事長に、み

なさんが取り組んでいる活動についてお話しいただきます。

**太田さん** 私は仲間の学生とともに、山梨県東部で古くから続いている絹織物「郡内(ぐんない)織物」を活性化させるための振興プロジェクトに取り組んでいます。若者に買ってもらえる製品を考えたり、学内のイベントスペースで郡内織物を紹介するイベントを開催したりしています。



西村成龍さん  
山梨県遊技業協同組合理事長

1968年甲府市生まれ。2013年「株式会社芳臣」代表取締役就任。14年山梨県遊技業協同組合理事長就任。ホール駐車場での子どもの車内事故防止、のり込み問題、富士山の保全活動支援、防犯カメラの設置協力などを推進している。



コーディネーター  
古屋和雄さん  
文化学園大学教授・元NHKアナウンサー

1949年富士河口湖町生まれ。1972年早稲田大学第一政経学部政治学科卒業後、NHK入局。東京、福井、釧路、大阪などに勤務。2013年4月、文化学園大学教授に就任。文化外国語専門学校校長を兼務。



太田裕也さん  
都留文科大学社会学科環境・コミュニティ創造専攻



石岡真由美さん  
都留文科大学社会学科環境・コミュニティ創造専攻

この活動を通して見てきたのは、自分たちが暮らす地域に、そんな織物があることを知らなかったという若者が多いこと、いま売られている座布団カバーやネクタイといった製品と若者が欲しいと思う製品との間にギャップがあるということなどです。時代に合ったアイデアやニーズを若者が提示していくことで、伝統産業の転換による影響を与えることができるのではないかと思います。

**石岡さん** 私は「紅富士太鼓」によるネパール支援活動に取り組んでいます。紅富士太鼓は、阪神淡路大震災のボランティア活動をきっかけに、青少年育成という目標を掲げ、19年前にできた和太鼓チームです。これまで地元の祭りへの参加、小学校や老人ホームの訪問、台湾、アメリカ、フランスなど海外での演奏をしてきましたが、ここ10年ほどは、ネパールの子どもたちとの交流に力を入れています。今年4月に起きたネパールの大地震では、街頭募金で集めたお金や支援物資を現地に届けました。また、夏には被災した子どもたちを山梨に招いて、自然や文化に触れてもらうことで元気になってもらうという活動もしました。

**西村さん** 山梨県遊技業協同組合では、組合員やホール関係者が「富士山をきれいにする会」が実施する清掃活動に参加したり、「富士山ふるさと研究会」の活動を資金面で援助しています。また、夜のネオンサインなどを消して満天の星空を眺めようという趣旨のイベント「ライ



トタウンやまなし」への協力、東日本大震災の被災地である福島県の子どもたちを山梨に招いてリフレッシュしてもらう「山梨じゃんじゃんキャンプ」への活動資金援助、県警との「犯罪の起きにくい社会づくりに関する協定」に基づき、甲府市や笛吹市への防犯カメラ設置、振り込め詐欺防止のためのポケットティッシュの作成、同じく路線バス内での注意喚起の放送などを行っています。

### 自分ができる範囲で無理なくやってみよう!

**小宮山さん** 最近、大学生や高校生が、学校外の団体や行政と連携していろいろな活動を展開しています。若

い人たちが社会の一員としての意識を高め、社会に貢献していこうとする意義は非常に大きいと思います。そういう活動を通してさまざまなことを肌で感じた若者たちが、社会人になっても活動を続けたり、それを仕事につなげていくケースも見られます。社会貢献活動は、一方通行ではなく、お互いが前に進むための力になるのではないかと思います。

**ルー大柴さん** 支援やお手伝いをする側も、何かを感じたり、得るものがある。まず、アクションを起こすことが大切。社会貢献というと固いニュアンスになりがちですが、私は自分磨きとしてとらえています。

**渡辺さん** 私も25年間、ボランティア活動を続けてきま

したが、ボランティアは人のためにやっているという印象があるかもしれませんが、自分のためでもあります。もう一人の自分を探すための舞台を得ているともいえます。

**ルー大柴さん** その通りですね。ボランティアをすることで、「あっ、こんな自分もあったんだ」というものが少し見えてくる。それは、体験しないとわからないこと。

**渡辺さん** まずは自分ができる範囲で、やれることを無理なくやってみる。主体的にやることで、遠くに感じていた街や故郷が近くに感じられて、愛郷心のようなものが育ってくる。私がグラウンドワーク三島というNPO法人で取り組んだことは、人の気持ちを変えること。地域の人たちと一緒にあって、30年間ゴミだらけだった静岡県三島市の源兵衛川をホテルが乱舞するすばらしい川に変えた。地域に生きている人たちが地域を大切にすると、そこに行ってみたくてという人が出てくる。ボランティアは社会を変えるひとつの処方箋であり、問題意識を持って自分が出来る範囲で知恵やアイデアを出して解決策を探すことこそが、主権在民というか、民主主義の原点だと僕は思っています。たくさんの人が支え合うことで、街も人の気持ちも変えることができる。

**西村さん** 地域の財産を守り、活かすことが地域を変えるひとつの力になると思います。何よりも社会貢献活動やボランティアを通じて人が変わることが、一番大きな力になるのではないのでしょうか。

**小宮山さん** 富士山が世界文化遺産に登録されたことが、地場産業、農作物や動植物、芸能や文化活動など、地域の宝を改めて見直す機運につながっている。そうした地域の財産を守るには、それを理解する人を育てていくことが大切だと思う。社会貢献活動は、そうした人を育てる土壌を育てているのではないかと思います。

**古屋さん** 戦後の私たち日本人は、「私」を肥大化させ、「公」を小さくしてきた。これから新たな公意識を作らなくてはいけないが、それは政治家などによって上から押し付けられるものであってはならない。そうしたことを考えさせてくれるのが社会貢献活動ではないかと思います。

**渡辺さん** 一人の人がPTA役員をやったり、消防団員をやったり、何かしらの社会貢献活動をすれば、二人分、三人分になる。ですから人口が減っても何も問題はない。社会貢献活動を増やしていけば、社会がどんどん豊かで楽しいものになっていく。みなさんの現実的な行動を期待しています。

**古屋さん** 最後にルーさんの得意の決め台詞でフォーラムを閉会したいと思います。

**ルー大柴さん** わかりました。山梨の自然、まち、富士山をまもって、いかして、トゥギャザーしよう!

### 本当に支援が必要となる場所を見極め、活動を継続していくことが大切

山梨県遊技業協同組合 理事長 西村成龍さん

若い学生さんたちが取り組んでいる活動に驚くとともに、当組合でも、もっとできることがあるのではないかとこの思いを強くしました。山梨県内のパチンコ業界も厳しい経済状況下であり、寄付の規模にしろ、組合員の動員にしろ、減少せざるを得ない状況ですが、だからこそ本当に支援を必要としているところはどこなのか、どんな支援が必要なのか、自分たちで足を運び、自分たちの目で確かめ、よく話を聞いて、支援先や支援方法を検討する時期に来ていると思います。そのほうが実効性のある社会貢献活動につながると思うし、絆の深まりやモチベーションの向上にもなる。いずれにしろ、社会貢献活動は継続することが何よりも大切なこと。今後も組合員と相談しながら、できることを継続していきたいと思っています。

